



TITLE:

腔内異物による膀胱腔癭の1例

AUTHOR(S):

花井, 禎; 宮武, 竜一郎; 加藤, 良成; 井口, 正典

CITATION:

花井, 禎 ...[et al]. 腔内異物による膀胱腔癭の1例. 泌尿器科紀要 2000, 46(2): 141-143

ISSUE DATE:

2000-02

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/114210>

RIGHT:

腔内異物による膀胱腔瘻の1例

市立貝塚病院泌尿器科 (部長 : 井口正典)

花井 禎, 宮武竜一郎, 加藤 良成, 井口 正典

VESICOVAGINAL FISTULA DUE TO A VAGINAL FOREIGN BODY:
A CASE REPORT

Tadashi HANAI, Ryuuichiro MIYATAKE, Yosinari KATO and Masanori IGUCHI

From the Department of Urology, Kaizuka Municipal Hospital

An 18-year-old female consulted a clinic complaining of pollakisuria and urinary incontinence. She was referred to our department for operation under the diagnosis of vesicovaginal fistula due to a vaginal foreign body confirmed by intravenous pyelography and cystoscopic examination. About 7 months earlier, she inserted a hair spray can into the vagina but could not remove its cap. The vaginal foreign body was transvaginally removed. After 2 months, transabdominal repair of the vesicovaginal fistula was performed. After operation, dysuria and urinary incontinence were not observed. Few cases of vesicovaginal fistula due to a foreign body in the vagina have been reported, and there have been only 6 reported cases in Japan including ours.

(Acta Urol. Jpn. 46 : 141-143, 2000)

Key words: Vesicovaginal fistula, Vaginal foreign body

緒 言

子宮摘出術や分娩処置後などの婦人科手術後の膀胱腔瘻は、近年減少傾向にある。また腔内異物による膀胱腔瘻はきわめて稀である。われわれはヘアースプレー缶のキャップを腔内に約7カ月放置していたことによる膀胱腔瘻の1例を経験したので報告する。

症 例

患者 : 18歳, 女性

主訴 : 頻尿と尿失禁

家族歴 : 特記すべきことなし

既往歴 : シンナー常習者であるが精神状態は特に問題はない。

現病歴 : 1997年4月頃より頻尿と尿失禁が出現するが放置していた。しかし、症状が増悪してきたため同年8月に某泌尿器科医院を受診した。同医の精査にて腔内異物による膀胱腔瘻と診断され、加療目的で患者の居住地に近い当科に紹介となった。初診時の問診にて同年1月に友人と飲酒時にヘアースプレー缶を腔に挿入し、その際にキャップだけ抜けなくなったが放置していたことが分かった。

現症 : 当科初診1997年8月6日。初診時理学的所見 ; 体格中等度。胸腹部に特に異常所見を認めず

初診時一般血検査 : 末梢血 血液生化学検査は炎症所見以外に特記すべき異常所見なし。

尿所見 : 蛋白 (3+), 糖 (-), 潜血 (3+), 白血球

多数/hpf, 赤血球多数/hpf, 尿培養 *Staphylococcus epidermidis* 10^7 /ml.

内診所見 : 腔口より深さ5 cm, 12時の部分に約2横指が挿入できる膀胱腔瘻を認めた。後陰門蓋に異物を触知するが癒着化した腔壁に被覆され可動性はまったく認めなかった。

画像所見 : 排泄性尿路造影では膀胱上部に腔内異物

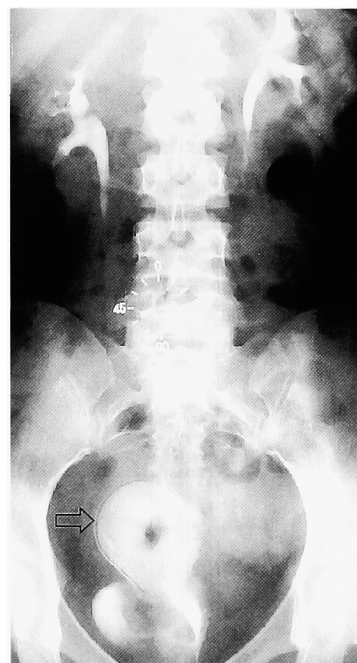


Fig. 1. Intravenous pyelography shows vaginal foreign body (arrow).

と思われる異常陰影と膀胱の変形を認めるが、上部尿路には特に異常を認めなかった (Fig. 1). 膀胱造影では腔内異物のキャップ近傍に膀胱から腔への造影剤の溢流を認めた. CT・MRI でも腔内異物がはっきりと確認され, MRI では膀胱から腔への造影剤の溢流が確認された. その周囲には膿瘍などの形成は認められず, また直腸と腔との交通は認められなかった (Fig. 2).

腔内異物は用手的に摘除困難であり, 1997年8月28日に産婦人科にて経腔的に腔壁を数カ所切開のうえ摘

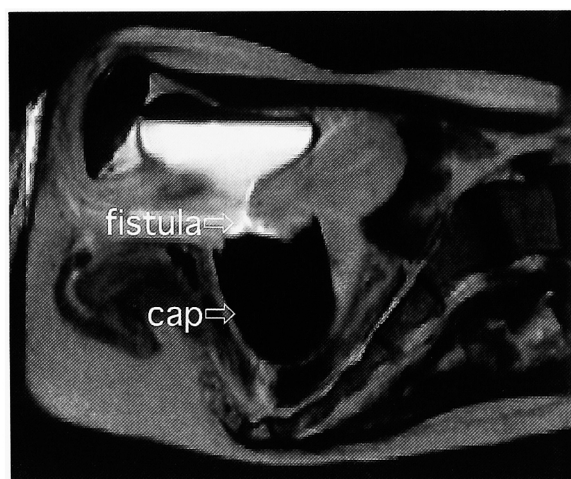


Fig. 2. MRI (T1 weighted image) shows vaginal foreign body and vesicovaginal fistula.



Fig. 3. Vaginal foreign body (spray cap) and its content.

出された. キャップの中には腔からの分泌物および炎症物質が貯留し半固形となっており, 悪臭を放っていた (Fig. 3).

経腔的腔内異物除去術後に膀胱鏡検査を施行した. 瘻孔は膀胱三角部を横切って形成されており, その辺縁は浮腫は認めるが膀胱粘膜全体の炎症は軽度であり, 両側の尿管口の蠕動運動は良好であった.

経腔的腔内異物除去術後, 瘻孔の炎症が消失するのを期待し尿失禁状態のまま保存的治療を行った. 約2ヵ月後再度膀胱鏡検査を施行した. 腔内異物除去術時に比べ瘻孔周辺の炎症は著明に改善しており, 膀胱壁と腔との移行部は癒着化されていた. 両側の尿管口の蠕動運動は良好であった. そこで同年10月16日に経腹的膀胱腔瘻閉鎖術を施行した.

下腹部正中切開にて腹膜外より膀胱前腔に到達した. 膀胱高位切開を加え直視下に瘻孔の周囲肉芽組織を切除し膀胱壁と腔壁および膀胱腔中隔をそれぞれ剝離した. 剝離は比較的容易であった. 瘻孔と尿管口の距離は充分あったため膀胱尿管新吻合は行わなかった. 経腔的に腔壁を縫合し, また膀胱内操作で膀胱腔中隔を縫合し膀胱壁を3層に縫合し手術を終了した.

術後15日目に膀胱造影にて瘻孔の消失を確認し, 術後19日目に尿道カテーテルを抜去した. カテーテル抜去後は尿失禁や腔からの尿の流出もなく, 術後4ヵ月の現在も排尿状態に特に異常は認めていない.

考 察

腔内異物による膀胱腔瘻の報告は検索しえたかぎり, 本邦では自験例を含め6例ときわめて少ない¹⁻⁵⁾ 腔内異物は2例が子宮脱の治療目的で挿入された pessary で定期的な交換を怠ったために生じたと考えられる^{1,2)} その他スプレー缶キャップが2例, ボールペン, 皮革製品, がそれぞれ1例であった³⁻⁵⁾ 全例観血的治療が施行されている. 尿路変向術が必要となった症例はいずれも10年以上腔内異物を放置していた (Table 1). アプローチについては経腹的 経腔的 などがあり経腔的の方が成績が良いという報告もあるが一定の見解はない⁶⁻⁹⁾ 自験例では瘻孔が大きかったこと, 尿管膀胱新吻合術が必要となる可能性があったことから経腹的なアプローチを選択した. また, 腔内異物除去後の保存的治療期間については瘻孔の大き

Table 1. 6 cases of vesicovaginal fistula due to vaginal foreign body in the Japanese literature

報告者	報告年	年齢	主 訴	腔内異物	放置期間	アプローチ	尿路変更術
東ら	1986	63	頻尿, 排便痛	ペッサリー	20 y	経腔的	+
田平ら	1987	63	頻尿, 頻尿痛	ペッサリー	20 y	経腹的	+
山下ら	1988	40	月経過多, 尿失禁	皮革製品	10 y	経腹的	+
宮城ら	1988	19	排尿痛	ボールペン	不明	経腹的	—
江川ら	1996	26	頻尿	ヘアースプレー缶キャップ	1 M	経腹的	—
自験例	1998	18	頻尿, 尿失禁	ヘアースプレー缶キャップ	7 M	経腹的	—

さ・腔内異物の性状・直腸や尿管などの他臓器への影響・放置期間 全身状態などによって様々であり, 術式についても同様である⁶⁻⁹⁾

いずれにしても重要なことは1) 瘻孔部の癒着組織の十分な切除と緊張のかからない縫合, 2) 術後の局所感染や死腔の予防, 3) 異物摘除後は瘻孔周辺の炎症や浮腫が十分に消退するまで数カ月間待機することなどである⁶⁻⁹⁾ 本例ではそれらが実行され満足のいく結果を得られた。

結 語

ヘアースプレーのキャップを腔内に約7カ月放置していたことによる膀胱腔瘻の1例を報告した。腔内異物摘除後2カ月目に経腹的膀胱腔瘻閉鎖術を施行し治癒した。

本論文の要旨は, 第162回日本泌尿器科学会関西地方会において発表した。

文 献

1) 東陽一郎, 上田正山, 清田 浩, ほか: 異物によ

る膀胱・腔 直腸瘻の1例. 慈恵医大誌 **101**: 854, 1986

- 2) 田平勝郎, 山内茂人, 渡部直生, ほか: 長期ペッサリー装着による直腸腔瘻および膀胱腔瘻の1例. 日産婦東京会誌 **36**: 45-47, 1987
- 3) 宮城徹三郎, 島村正喜: 膀胱腔瘻合併例を含む膀胱異物の3例. 石川中病医誌 **10**: 163-166, 1988
- 4) 山下 努, 植竹 泰, 伊藤晃子, ほか: 腔内異物によって発症した膀胱腔瘻の1例. 日産婦関東連会誌 **49**: 140, 1988
- 5) 江川雅之, 浅利豊紀, 宮崎公臣, ほか: 腔内異物による腔膀胱瘻. 臨泌 **50**: 237-239, 1996
- 6) 那須保友, 大森弘之: 膀胱腔瘻閉鎖術. 臨泌 **49**: 31-36, 1995
- 7) Kelly J: Vesico-vaginal and rector-vaginal fistulae. J Roy So Mud **85**: 257-258, 1992
- 8) Goodwin WE and Scardino PUT: Vesicovaginal and ureterovaginal fistulas. J Urol **123**: 370-374, 1980
- 9) Pesky L, Herman G and Gorier K: Nondelay in vesicovaginal fistula repair. Urology **13**: 273-275, 1979

(Received on March 23, 1999)
(Accepted on October 15, 1999)